



YES

C F A I (チエシャ財団)



2015年デシエと周辺の町の障害児への車椅子供与報告

本報告書の提出先：海外に車椅子を送る会

作成者：C F A I

2016年7月

エチオピア・アディスアベバ

目次：

項目	ページ
1. はじめに -----	3
2. 背景 -----	3
3. 目的 -----	4
4. 主な活動内容 -----	4
4.1. 連絡 -----	4
4.2. 運搬 -----	4
4.3. 贈呈式 -----	5
5. 成果 -----	6
6. 課題 -----	8
7. 課題克服への取り組み -----	8
8. 教訓 -----	8
9. 結論と提案 -----	9
9.1. 結論 -----	9
9.2. 提案 -----	9

1. はじめに

障害者のリハビリプロジェクトを行うチェシャ・エチオピア財団（C F A I）には様々な活動があり、車椅子等の備品供与も障害者支援の活動に含まれる。そこで、本年 2016 年に C F A I は日本の「海外へ車椅子を送る会（以後「送る会」）から 160 台の車椅子を受け取り障害児へ配布することになった。「送る会」と C F A I の間で交わされた合意書に基づき、160 台の車椅子は C F A I が行うデシエ C B R プロジェクトに贈与された。この報告書はその経過全てをまとめたものである。

2. 背景

C F A I は 1985 年設立のエチオピアの慈善団体で、エチオピア国内各地の障害者の利益を促進するために活動をしている。C F A I は 2001 年に国から慈善団体として登録されており、正当な免許を取得したことからアジスアベバ市、アムハラ及びオロミア地区における障害予防、リハビリ、インクルージョンプログラムを集中的に実行することが可能になった。

当財団は障害者の利益を第一として活動する地域 N G O のパイオニアの一つで、障害者の生活を向上させるには様々な開発関係者と連携していくことが必要だと確信している。障害者もまた社会の一員であるという意識で我々は活動しており、国の貧困撲滅戦略（P R S P）と維持可能な開発目標（S D G）は社会の大部分がインクルージョン（障害者が健常者とともに生活する社会）を取り入れない限り達成できないと、C F A I は信じている。

障害者が市民として国や地域の社会的、経済的発展に健常者と同様にに関わり、健常者と同じ機会を当然のこととして得ることのできるインクルージョンの環境を作り出すことが当財団の最終目標であり、自分たちの活動が、国とそして世界の問題解決に寄与することを目指して活動している。意図するのは障害者が成長する権利が尊重されるインクルージョンの社会を創ることである。

3. 目的

このプロジェクトの総括的 목적は、障害児の生活の質を、地域に根差したリハビリとインクルージョンプログラムの活動によって向上させていくことである。

具体的な 目的は日本の「送る会」から送られた車椅子と補助椅子をデシエとその近辺のこれらを必要とする 160 人の障害児に供与することである。

4. 主な活動内容

車椅子が実際に障害児の手に渡るまでには多くの行程があった。

4.1. 連絡

このプロジェクトを立案し、日本のNGOグループ「送る会」と協定した後、通関、免税特権及び、安全な運搬の保証のために、当財団と「送る会」は何度もメールや必要とされる文書を取り交わした。

車椅子運搬の請求書、贈呈証明書その他の文書が日本から届き、C F A I は Marcan Logistics PLC という通関代理店に業務委託をしたが、彼らなしでは免税の手続きを滞りなく済ませることはできなかつたろう。P L C から派遣された職員はすべての手続きを執り行い、車椅子はアジスアベバから 400 キロ北のデシエに運搬されたのだった。

上記以外にも C F A I は関係諸団体から必要な支援を受けるべく市民社会庁、労働社会事務所、税関、デシエ市当局、そして日本大使館などとも連絡を取り合ってきた。

4.2車椅子の運搬

車椅子及び補助椅子は収集、整備を経て日本からエチオピアへ送られてきた。税関手続きが済むと、車椅子はデシエに運ばれ、贈呈式の準備に入った。モジョからデシエまでの運搬は車いす用の運搬車がないため、特に困難だった。P L C の援助で車椅子は無事デシエに到着した、この場を借りて彼らに謝意を表明したい。

4.3 贈呈式

贈呈式はデシエにある人工装具・矯正器具センター内で行われた。出席者は「送る会」から森田会長と会員、C F A I から常任理事のKedir氏、プロジェクトマネージャーのMaru氏、デシエのプロジェクトマネージャーと職員、デシエ市の代表、障害児親子他多数であった。式は式次第の説明で始まり、C F A I 常任理事のKedir氏が歓迎の辞を述べた。Kedir氏はスピーチの中で「送る会」との関係ができたことでこれまで手の届かなかった子どもたちに車椅子を届けられたこと、このような支援が受けられず家の中にこもっている多くの子どもがいることも指摘しつつ、デシエの幸運な子どもたちはこの日をもってバリアを破り外に出る機会を得たと述べた。最後に関係各部署、デシエの贈呈式に参加してくれた日本のNGOグループ「送る会」とエチオピアの日本大使館に謝意を表してスピーチを終えた。

日本大使館一等書記官の山田氏は挨拶の後、日本大使館の世界、そしてエチオピアにおけるこうした事業への任務について説明をした。また山田氏はこの式典に参加したことで日本のボランティアチームが成し遂げたすばらしい活動を実際に見ることができたことを非常にうれしく思うと述べた。さらに氏は、家にひきこもっている子どもたちを外に連れ出しよりよい教育を受けその結果自立した市民となるよう日本大使館は将来的にも支援をしていくと表明した。

次にKedir氏は日本のNGO会長である森田氏を招き、これまでの「送る会」の支援について語ってくれるよう促した。



スピーチをする森田会長

森田氏はそのスピーチの中で日本からエチオピアへの車椅子供与の目的を説明した。その目的とは、貧困その他の理由で移動手段を持たない障害児を支援することである。氏はまた、車椅子がどのように収集され整備されているのか、梱包、荷積み、運搬の様子などについて説明し、続いてエチオピアの子どもたちを支援するために日本人たちがいかに関わってきたかを話した。

最後に森田氏は車椅子を提供してくれた日本の障害児親子、また資金面でも技術面でもサポートしてくれた日本政府に謝意を述べた。

続いて「送る会」の会員桑山氏がスライドを使って車椅子収集、整備、梱包、運搬の様子を紹介した。これにより活動の経過が具体的に示された。

次にデシエ市の代表がスピーチをし、CFAIと「送る会」双方の尽力に感謝を表すとともに、この関係がさらに発展していくことを期待すると述べた。代表は日本大使館一等書記官に感謝し、それに加えて今後二国間の関係を強化していくことを希望した。

ここで出席者は贈呈された車椅子を見に行くよう促され、実際に子どもたち一人一人に合った車椅子や補助椅子が供与されていくところに立ち会った。子どもを連れてきた保護者の多くがインタビューを受け、たいへんうれしい、子どもの将来が明るく開けた、と感想を語った。保護者達はまた、子どもが成長し、車椅子等が使えなくなったときには、他の子どもが使えるようにその車椅子を返却することを約束した。また彼らは日本の人たちが子どもたちの移動手段である車椅子をこのようにきちんとした形で届けてくれたこと、その優しさ、温かさに感謝の気持ちを述べた。

贈呈式には、地元の新聞社等、マスコミも参加し、記録を取っていった。



車椅子贈呈式の様子

5. 成果

本プロジェクトの目的はデシエの障害児に車椅子を供与することだったが、77 台をデシエ市の子どもたち（男子 48 名、女子 29 名）に、63 台をデシエ障害リハビリセンターと協力してデシエ周辺の地区、Kombolcha, Kemisse, Haikut 等（男子 38 名、女子 25 名）に渡すことができた。車椅子を受け取った子どもたちは全員最初にデシエ人工補装具・矯正器具センターの審査を受けた。同センター事務局からは今後もチェシャ財団の事務所からの照会に応じて車椅子の維持、修理等、必要とされるあらゆる支援をしていく同意を得ている。C F A I は車椅子使用の指導、カウンセリングな

どでセンターと協力していく。車椅子使用者家族はCFAIと「送る会」に感謝するとともに車椅子が次の使用者に渡った時にもいい状態で使えるように車椅子を大事に使っていくと約束した。

次の写真から車椅子の供与でいかに子どもたちの生活が変わったかよくわかるでしょう。

車椅子に座ってうれしそうな子どもたち



Rihana さん（13 歳女子）と父 Mohammed 氏、娘が車椅子に座ったのを見てうれしそうだ。



Eyosiyas Andualem くん（5 歳男子）にこにこしている。



Mohammed くん（4 歳 男子）



Abenezzer くん (3歳 男子)

6. 課題

- 車椅子の通関手続きは時間がかかり事務作業に追われた。
- デシエまでの運搬は適切なサービス業者がないため困難な点があった。
- 車椅子配付まで保管しておく倉庫がなかった。
- 障害児やその家族を補助的に支援する基金が不足している。

7. 課題克服への取り組み

上記の課題を解決するために以下の方策がとられた

- ❖ 通関代理店との密な連絡
- ❖ モジョからデシエまでの運搬に関しては通関代理店が信頼できる運搬業者を見つける手助けをしてくれた
- ❖ デシエの補装具センターに依頼し車椅子のスペースを空けてもらった
- ❖ デシエチェシャプロジェクトはネットワークにより障害児とその家族にローンを組むマイクロファイナンスへの委託を始めた

8. 教訓

C F A I は様々な経過から次のことを学んだ。

- 困難な課題も解決でき、手の届かなかった貧しい人に手が届くようになる。
- 計画がきちんとされていけば仕事はうまくいき、長続きする。
- 関係する人すべてを巻き込むとそれぞれが将来を見越して努力してくれる。今回は市当局や地区の事務所がすべき役割を果たしてくれた。
- 他の地域に住む子どもたちに同様の支援をするには資金集めを強化すべきだとわかった。

9. 結論と提案

以上の説明から、本プロジェクトが成功裏に終了したことは明らかである。デシエ及びその周辺に住む予定されていた子どもたちには車椅子を届けることができた。プロジェクトに参加したすべてのパートナーがその任務を果たした。「送る会」の本プロジェクトに関わったメンバーは常に緊張感を持ち、プロジェクトの開始時から贈呈式に至るまで時間通りであったし、C F A I側の責任者たちもまた同様に地域の関係者からプロジェクトの目的の理解を得られるようあらゆる任務を果たしてきた。

9.1 結論

結論として、日本からの車椅子をデシエ及びその周辺の町の子どもたちに供与し、子どもたちの日々の生活における移動手段を向上させるという当初の目的は達成された。車椅子を得た160人の子どもたちは通学の手段をもち、保護者は仕事のために家を離れることができ、それがよりよい収入を得ることにもつながっている。車椅子を提供してくれた人々に感謝しなくてはならないだろう。彼らの支援がなかったらこのような変化は起こり得なかったのだから。

9.2 提案

個々の障害児、その家族にもたらされた変化を見ると、同じように移動手段を必要としている各地の子どもたちを精査し、支援の手を届けられるように本プロジェクトが継続することを推奨する。

従って、車椅子提供者には支援の手が届かない子どもたちが移動手段を得て学校や地域社会のサービスを受けられるように、これまで同様支援の輪を広げていってもらえると幸いである。